

山梨県作業療法士会ニュース



やまなし

第 97 号 2018 年 3 月 7 日（年 3 回発行）

1p 『第 2 回 山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会開催報告』

3p 施設紹介 『身延町早川町組合立飯富病院』

4p 『ピアサポーターの役割と実際について学びました』

山梨県精神科病院協会 OT 部会 活動報告

5p 『座談会「福祉用具・意見交換会」報告』福祉用具委員会

6p 理事会便り 7p 各種申請書のおしらせ 8p 編集後記

第 2 回 山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会開催報告

運営局 会場運営部副部長
山梨厚生病院 桑原 宏和

平成 29 年 12 月 2 日（土）、3 日（日）、澄みきった冬晴れのなか、第 2 回山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会がアピオ甲府にて開催されました。今回は S T 士会内山量史大会長のもと「躍進～リハビリテーション未来の創生～」をテーマに 2 日間で延べ 677 名の参加がありました。



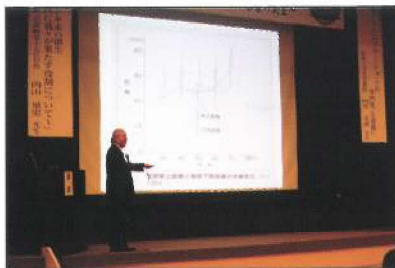
<アピオ甲府>



<開会式>

学術大会は、特別講演・大会長講演・教育講座・一般演題という内容でした。

特別講演は初日に昭和大学名誉教授の向井美恵先生に「摂食嚥下リハビリテーションの専門性と連携」というテーマで、嚥下機能の変化・対応や他職種の役割や連携といったお話をして頂きました。2 日目には情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センター研究マネージャーの内藤栄一先生から「自己（固有）受容感覚処理における運動領野ネットワークと右半球前頭－頭頂ネットワークの役割とその機能発達」というテーマで、脳の最新知見を紹介しながら脳内ネットワークの役割や機能的発達についてお話を頂きました。どちらの講演もこれからの臨床に役立つお話で大変興味深く聞かせて頂きました。



＜向井先生の講演＞

教育講座では、災害リハビリテーション、訪問リハビリテーション、認知症、地域支援事業と4つの講演があり、専門職が関わる現状や今後の可能性について知る機会となりました。

一般演題は臨床研究、実践報告、言語機能・高次脳機能、運動器、連携・支援、症例報告と38演題の発表があり、活発な質疑応答が行われました。



＜内藤先生の講演＞



＜大会長講演＞



＜教育講座＞



＜一般演題＞

また、平成29年11月22日（水）には、学術大会に先立って市民公開講座が県立文学館で開催され、163名の参加がありました。慶応義塾大学医学部 精神・神経科学教室教授の三村将先生から、近年話題となっている「認知症と自動車運転」というテーマでご講演頂き、高齢者運転の現状や今後について知る機会となりました。



＜市民公開講座＞

今回の学術大会を滞りなく終えることができ、ほんとに安堵しています。

3年後には第3回山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会を開催する予定となっています。

3士会が更に強い絆で結ばれた学術大会になると思いますので、是非とも実行委員への参加、学術大会への参加をお願い致します。



＜学術大会後の記念撮影＞

施設紹介

身延町早川町組合立飯富病院

リハビリテーション科 小池 琢哉



当院は、本県でもっとも南に位置します公立病院です。昭和 28 年に現在の身延町飯富に開設しました。開設以来、無医地区への出張診療と歴史を尊重し今後も継続・発展させ、過疎地に生活する人、この地を離れて生活する人達が、飯富病院がこの地にあることを誇りに思うような病院を目指すことを基本理念としています。この地区は大半が山間地域で、県下で最も高齢化率が高く、過疎化が進み、ひとり暮らしや老老介護の世帯が大半を占めています。

このような地域特徴に対応すべく、へき地医療拠点病院の指定を受け、無医地区の 12 カ所に出張診療所を設けさらに往診もしています。病床数は 87 床、うち一般病床 41 床、地域包括ケア病床 20 床、療養病床 26 床です。付帯施設は、介護老人保健施設峡南ケアホームいいとみ、通所リハビリテーション、居宅介護支援事業者、訪問看護ステーション、訪問ヘルパーステーション、峡南在宅医療支援センターです。

当院リハビリテーション科は PT 7 名、OT 1 名です。入院患者だけでなく、外来・訪問リハビリテーションまで関わらせて頂いております。また 2016 年からは山梨県委託事業である峡南地域リハビリテーション広域支援センターを受託し今まで以上に地域住民のみなさまに支援させて頂いております。さらに付帯施設への移動により予防期から急性期、在宅生活復帰支援、生活期まで経験させて頂いております。PT・OT が同じフロアで行っているのも、他のリハビリテーション場面を見ることができるので患者様の状態把握、情報交換がしやすくなっています。リハビリテーション処方箋が出される患者様の平均年齢は 80 歳を超えており、疾患を重複してお持ちになっていることが多く、うまくリハビリテーションが進まない患者様も多くおられます。



在宅復帰支援では、認知症をお持ちになりながらも独居生活をしなければならない患者様もあり、院内の他職種ばかりでなく地域の民生委員、保健師などとも連携し支援する場面も多くあります。精一杯支援したと思っても、すぐに別の疾患で再入院してしまう患者様もあり反省と自問自答を繰り返す日々です。しかし患者様のほとんどはこの地域の方で、昔一緒に地域の役員をやっていた、ご近所、同級生など日々リハビリテーション室はさながら社交場となり嬉しそうに会話を楽しんだり互いを励ましあったりする患者様をみると、またがんばろうという気持ちが湧いてきます。けっして私たちが施しているわけではなく、患者様より学ばしていただいていることも多く、これからも地域の人たちと同じ地平に立ち、同じ目の高さで考え、話し、良き隣人であり、人生の先輩であることを忘れず、少しでもお力添えできるよう努力していきたいです。

山梨県精神科病院協会 OT 部会の活動報告

『ピアサポーターの役割と実際について学びました』

公益財団法人住吉偕成会 住吉病院

活動療法部 作業療法室

河野 有希

山梨県精神科病院協会 OT 部会の研修会で、公益財団法人住吉偕成会 ハピアすみよしの望月所長と、甲府圏域ピアサポーターの方 3 名様に山梨県精神障害者地域移行支援事業についてやピアサポーターの役割と実際の活動についてご講演いただきましたので、報告させていただきます。

地域移行では、障害を持った方個々人が、地域住民として自ら選んだ住まいで安心して、自分らしい暮らしを実現することを目的にしています。山梨県での地域移行の取り組みですが、平成 17 年度から退院促進支援事業が始まり、平成 24 年度からは、地域移行支援事業として、ピアサポーターの活動が始まりました。

ピアサポーターは、県や保健所から業務委託され、入院している方に対して支援を行います。退院意欲の喚起、地域移行支援、地域定着支援と、退院したい気持ちの後押しから、退院してからのフォローアップまでを担っています。退院を迷っている方、退院したい方に、同じ体験をした仲間として、退院して良かった体験を話し、また、地域生活に必要な情報を届けます。さらに、長期入院（社会的入院）をされている方々に、退院後の地域生活のイメージ作りをしてもらえるように、地域移行啓発 DVD を作成され、そこには、ピアサポーターの方が出演し、生活の様子を紹介されていました。今回、ご講演いただいた方の姿も収められており、日常の様子や暮らしの工夫、楽しみをもって生活されていることが分かる内容で、退院したいなあ、退院してもやっていける気がするなあ、と思えるような工夫がなされていると感じました。

山梨県障害者地域移行支援事業は、今年で 7 年目になり、ピアサポーターの登録者は 7 名いらっしゃるそうです。現在までに 7 名の患者さんが対象となり、内 6 名の方が退院し地域生活を送っているとのこと。

今回の講演では、ピアサポーターの方々の実際の声を聞かせていただく機会もありました。ピアサポーターになった経緯について、役に立ちたい思いが強くなったから目指したというお話や、自分自身がしっかりせねばならず自分も良くなってきて安定したこと、自分はネガティブでたいしたことがないと思っており、それが逆に良いと思う、自分が退院できたから大丈夫だと思ってくれたらいい、それが自分の売りだというお話、もともと持っている退院していける力を引き出し、勝手に元気になっていったというお話、病院のスタッフにもう少し自分のことを信じて考えてほしい、話に乗ってほしい、どんどん呼んでほしい、支援の中に入っていきたいということ、自分が入院していた時に辛い思いをしていることをもっと聞いてほしかったということなど、普段なかなか聞けないお話も伺うことができました。

職員に、自分の本当の気持ちを打ち明けられない患者さんは多くいらっしゃるのではないかと思います。職員のアドバイスがなかなか受け入れられないという方もいらっしゃいます。しかし、ピアサポーターには素直に思いをぶつけることができたり、職員が言ったことと同じことであるのにピアサポーターの言葉には耳を傾けたりと、羨ましいなあと思うことがあります。同じ病気を経験した仲間であるピアサポーターだからこそ出てくる言葉があり、その言葉にも職員とは違った重さや深さがあるのだと思います。ピアサポーターにしかできない大切な役割、これがピアサポーターの専門性なのだなあと、改めて感じました。

ピアサポーターは、患者さんの声に耳を傾け、患者さんの力を信じて支援を行っています。私は、どこか、あきらめていた部分があったのかもしれませんが、「ピアの力を信じて、あきらめないでほしい」と言った、ピアサポーターの方の真っ直ぐな視線と力強い言葉が印象的でした。ピアサポーターと私たちは向いている方向は同じです。お互いの専門性を活かして、協力していきたいと思い、また、自身の臨床を振り返るきっかけとなった研修会でした。

福祉用具委員会

『座談会「福祉用具・意見交換会」』報告

山梨県作業療法士会 福祉用具委員会 大胡田 匡詞

平成 29 年 12 月 7 日（木）に山梨県作業療法士会福祉用具委員会が主催して、『座談会「福祉用具・意見交換会」』が山梨県立介護実習普及センターにおいて開催されました。当日は医療・介護保険分野で勤務する作業療法士、介護保険分野で働く理学療法士が参加し、座談会が行われました。

座談会では活発な意見交換会が行われました。いくつかの意見を紹介致します。

患者様利用者様にとって不要な福祉用具の導入例についての意見が挙がりました。具体的な導入例として、「導入した据置き手すりがまったく利用されず、洗濯用ハンガーの役割になっている」、「ポータブルトイレが埃まみれになり押入れに収納されている」等の内容が挙がりました。福祉用具の適切な利用は利用者様・患者様の生活範囲を拡大する重要なツールとなっております。しかし、不適切な福祉用具の導入は生活範囲を狭小化させ、患者様・利用者様の出来る・している ADL を狭める危険性を高めてしまいます。また、昨今、社会保障費は年々増え続けており、介護給付費の増大が社会保障費増大の一因とも言われています。前記した不要な福祉用具の導入による介護給付費の圧迫を防ぐためにも、適切な福祉用具の導入は非常に重要となっております。続いての意見について紹介致します。「病院（医療保険下）で対象者を支援する作業療法士、在宅（介護保険下）で支援する作業療法士の連携が少ない」との意見が挙がりました。具体例として、「在宅で支援する訪問リハビリ等の作業療法士に対して、対象者が使用する福祉用具の導入目的が伝達されていない」、「病院で支援してきた作業療法士が導入した福祉用具が、退院後に活用されていない」等の内容が挙がりました。医療保険下における制度上では、退院前訪問指導は多くても入院時と退院前の計 2 回に限られています。この限られた退院前訪問指導の中で、「対象者に対して適切な福祉用具・住宅改修を提案することは難しいのでは？」との意見が挙がりました。この意見の解決策として「入院中に無理に福祉用具を導入するのではなく、在宅で支援する訪問リハビリ等の作業療法士と十分に協議しながら、福祉用具の内容について検討する。」「退院後の自宅生活の様子を確認しながら必要な福祉用具の選定することが必要」との意見が挙がりました。病院で勤務する作業療法士、在宅で支援する作業療法士は紙面での連携が多いですが、紙面だけでなく電話等の連絡を通じて、積極的にコミュニケーションを図っていく重要性について認識出来る座談会となりました。

山梨県立介護実習普及センターには最新の福祉用具・自助具が展示されており、参加者は福祉用具と自助具を実際に「見る・触れる・試す」ことが出来ました。福祉用具は最新の機器が日々開発されており、変化してきております。福祉用具の変化に意識を向けていく重要性について確認できる機会となりました。また、山梨県作業療法士会地域リハビリテーション委員会が管理しております、アシストボックスについての紹介

をする機会となりました。アシストボックスは片手で薬包紙の開封を可能とする自助具、100 円均一で販売されている便利な道具等、数多くの自助具、福祉用具、道具が揃えてあります。ご興味のある方は是非、福祉用具委員会宛に連絡をください。また、臨床業務において、日々抱えている福祉用具に関する相談に関しても随時、相談対応しております。お気軽に福祉用具委員会宛に連絡をお願い致します。



理事会だより

一般社団法人山梨県作業療法士会 2017年度 第2回 理事会議事録

日 時：平成29年6月19日(月)

会 場：甲府城南病院 作業療法室

出席者：山本、廣田、古屋、三瀬、長坂、野上、中島、濱田、松田、米山、磯野、関谷、佐尾、宮尾、有泉：15名

1. 会長(山本)

- 1) 平成29年5月24日(水)山梨県リハビリテーション病院施設協会総会に出席(作業療法部会 事業報告)

2. 副会長(廣田・古屋)

- 1) 平成29年6月9日(金)山梨県理学療法士会交流会に廣田副会長・三瀬事務局長が出席
- 2) 平成29年6月10日(土)・11日(日)MTDLP 全国推進会議に古屋副会長・米山理事が出席

3. 事務局(三瀬)

- 1) 平成29年6月14日(水)第1回中北地域リハビリテーション連絡会に三瀬事務局長が出席
- 2) 東京都作業療法士会HCR 出展に伴う協力体制と補正予算について →当士会としてスタッフの派遣協力を行い、旅費及び交通費は県士会が負担する

<管理部>

- 1) 会員数564名(平成29年6月19日現在) 新規入会47名

<福利厚生部>

- 1) 平成29年6月15日(木)新入者・転入者歓迎会 160名参加

4. 特設委員会(松田・関谷・磯野・米山)

<地域リハビリテーション委員会>

- 1) アシストBOXは地域リハビリテーション委員会が管理している 窓口は海野(甲州リハビリテーション病院)が行う
- 2) HCR へのスタッフ協力についてアシストBOX の出展を検討している →承認

一般社団法人山梨県作業療法士会 2017年度 第3回 理事会議事録

日 時：平成29年7月12日(水)

会 場：甲府城南病院 作業療法室

出席者：山本、廣田、古屋、三瀬、長坂、野上、中島、濱田、米山、磯野、佐尾、宮尾：12名

1. 副会長(廣田・古屋)

- 1) 平成29年6月30日(金)三士会合同意見交換会に廣田副会長・古屋副会長・三瀬事務局長が出席
- 2) 平成29年7月1日(土)・2日(日)47 都道府県委員会に廣田副会長が出席

2. 事務局(三瀬)

- 1) 平成29年7月7日(金)山梨県介護実習普及センター運営委員会に三瀬事務局長が出席

<管理部>

- 1) 会員数567名(平成29年7月12日現在)

3. 社会局(濱田)

<事業部>

- 1) 第5回甲信越在宅推進フォーラム当日運営委員として飯野知一(竜王リハビリテーション病院)を推薦 →承認

4. 学術局(佐尾・宮尾)

<企画研修部>

1) 第1回企画研修部研修会

テーマ：信念対立解明アプローチの基礎と実践

日 時：平成29年7月9日(日)

会 場：大木記念ホール

講 師：京極 真

(吉備国際大学保健医療福祉学部 作業療法学科 准教授)

参加者：70名

一般社団法人山梨県作業療法士会 2017年度 第4回 理事会議事録

日 時：平成29年8月30日(水)

会 場：甲府城南病院 作業療法室

出席者：山本、廣田、古屋、三瀬、長坂、野上、中島、関谷、松田、有泉、濱田、米山、磯野、佐尾、宮尾、佐田：16名

1. 会長(山本)

- 1) 平成29年8月24日(木)第1回介護機器普及事業運営会に出席

2. 事務局(三瀬)

<管理部>

- 1) 会員数567名(平成29年8月30日現在) 入会1名、休会1名

<福利厚生部>

- 1) 記念品は絆創膏と綿棒セットを2,000個作製 →承認

3. 制度対策局(長坂)

- 1) 平成29年8月28日(月)来年度の同時改定について、山梨県理学療法士会、山梨県作業療法士会、山梨県言語聴覚士会からの要望を提出した
- 2) 当士会からは緩和ケア病棟への作業療法士の配置、医療機関以外の疾患別リハビリテーションを3単位から6単位へ増やし、外来で取得できること、リンパ浮腫への複合的治療の増点、認知症ケアチーム加算の専任を要望として提出した

4. 学術局(佐尾・有泉・宮尾)

<学術大会運営部>

1) 第11回山梨県作業療法学術大会

大会長を関谷理事とし、副大会長について磯野理事と黒崎真樹(健康 科学大学)へ打診を検討 →承認

5. 特設委員会(関谷・磯野・米山・松田)

<生活行為向上マネジメント推進委員会>

1) MTDLP 研修会

テーマ：MTDLP 実践における視点・ポイントと実践報告に向けて

日 時：平成29年8月4日(金)

会 場：リバース和戸

講 師：古屋 豊美(山梨厚生病院)

参加者：29名

<認知症対策推進委員会>

- 1) 昭和町の認知症カフェより、ミニ講座の講師依頼あり

→認知症対策推進委員会で対応

- 2) 平成29年10月29日(日)認知症アップデート研修の補正予算に関して →承認

一般社団法人 山梨県作業療法士会 会員シールの取り扱いについて

入会申請書及び会費の納入が確認された正会員に「会員シール」を発行しております。「会員シール」は、日本作業療法士協会会員証裏面に貼付（下記参照）し、士会主催の学会および研修会等に参加する場合は、必ず提示して下さい。

なお、「会員シール」の再発行は行っておりませんので、本証を紛失されないようご注意ください。



一般社団法人 山梨県作業療法士会会員手続きについて

入会について（会員の構成）

1. 正会員 一般社団法人日本作業療法士協会の正会員である者で、山梨県内に常勤または在住し、当法人の事業に賛同して入会した個人（作業療法士対象）
2. 賛助会員 当法人の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した個人または団体
3. 名誉会員 当法人の事業に顕著な功労のあったもの又は学識経験者

※いずれも理事会での承認が必要となります。特に賛助会員に関しては、賛助内容を明確に提出して頂き、理事会にて検討させていただきます。詳細につきましては、一般社団法人山梨県作業療法士会定款「第二章 会員」をご覧ください。

会員手続きについて

各種申請書（入会申請書／登録変更届／休会・復会届／退会届）を当士会ホームページからダウンロードして頂き、事務局 管理部まで郵送またはFAXにてご連絡ください。特に、変更届については、変更があり次第ご連絡頂きますようお願いいたします。

連絡・送付先

一般社団法人 山梨県作業療法士会 事務局 管理部
〒400-0831 山梨県甲府市上町753-1

甲府城南病院 リハビリテーション部 作業療法科内

FAX：055-241-8660（代）

TEL：055-241-5811（代）



編集後記

最近はスマホのアラームより先に犬の体当たりで起きます。二度寝しようものなら耳を噛んでできます。厳しいおかげで早起きです（浅）

2018年の運勢で某番組では48位中48位でした（稲）

現在リバウンド中（+8kg）で同僚妊婦のお腹の成長と良い勝負です（精）

今年は年男です。前の時には年賀状も気合入れたのにな～次は頑張りたいです（な）

今年は日本海側が大雪に…山梨には降らないで欲しいものです（つ）

三日坊主も10回やれば、30日分と言いかせて頑張ります。色々…（ふ）

この号が出る頃には医療・介護の改定内容がだいぶ出ているでしょうか…（い）

発行人：山本 伸一

編集人：中島雅人・飯野 知一・角田 幸一・内藤 和也・藤原 浩宣・梶原 由加里・浅川 良太・精進 智規・三森友樹・稲葉 峻太

イラスト：いらすとや

発行所：一般社団法人 山梨県作業療法士会 広報局 企画編集部

竜王リハビリテーション病院 訪問リハビリテーション事業所 〒400-0114 山梨県甲斐市万才 287 TEL 055-276-1155 FAX 055-279-1262

印刷所：（株）島田プロセス 〒409-3867 山梨県中巨摩郡昭和町清水新居 1534 TEL 055-233-8829